GROUP! RECORDED

19 日本国特許庁

公開特許公報

昭和 47 年 10 月 28 日 %

顧(8)

诗 許 庁 長 官

0

発明の名称

2. 発明者 左五五音音及大智智·0丁目400番地 ①特開昭 49 -66991

43公開日 昭49.(1974) 6. 28

②特願昭 47-108295

昭47.(1972)10.28 29出額日

本本箱求

(全4頁)

06423W/04 MITSUBISHI RAYON CO

A23 FO6 (A60)

許

MITS 28.10.72 *J4 9066-991

28.10.72-JA-108295 (28.06.74)

Polyester textiles with washfast hydrophilic properties - by treating with alkali and alkyl naphthalene

A5-E1B, A10-E1, A12-S5M.

342

Polyester fibres treated with aq. alkali soln. contg. alkylnaphthalene and having >1.5 mmoles CO2H gps./kg. on the surface are treated with agents contg. cationic gps., epoxy gps., or ethyleneimine gps. In an example, a poly(ethylene terephthalate) fabric was scoured, immersed 60 mins. in an aq. soln. contg. NaOH 0.5, methylnaphthalene (I) 0.2, and anionic surfactant 0.04%, washed, and dried 5 mins. at 170° to give a fabric having 8.2 mmoles CO₂H/kg. The fabric was immersed in 0.2% aq. soln. of polyethylene glycol alkylamine adduct, squeezed to 100% pickup, and heated 5 mins. at 170°. The fabric had water absorption (JIS L 1018-70) 11.3 and 11.8 cm. before and after 10 washings, resp., compared with 10.0 and 0, resp., for a similarly tested fabric without (I) treatment (CO₂H 0.4 mmol/kg.).

発明の名称

ポリエステル集業の包久加工法

特許額求の範囲

アルキルナフタリンを含有するアルカリ水液 ※で処理して得られた表面層のカルポキシル基 対が / s m mad/年機能以上の改要ポリエステル 誰をカテオン性基、エポキシ又はエテレンイ ミン当を有する加工剤で処理することを特徴と するポリエステル繊維の低失加工法。

発明の許諾な説明

本発射はポリエステル無差の包久加工法に保 わり、更に詳しくはアルキルナフタリンを含有 するアルカリ水溶液で処理して得られた袋面層 のカルボキシル基量がよる m mad/与機能以上の 改要ポリエステル繊維をカチオン性差、エポキ シ羔、又はエチレンイミン基を有する加工用で 処理することからなるポリエステル繊維の個人 加工法に貫する。

級指標造などに基づく嵌水性、製電性、防汚性、 具合などに多くの欠点を有している。

これらずりエステル機能の基本的な欠点を改 良するため、従来より多くの後加工による改良 研究がおこなわれているが未だ充分とは云えな v .

との原因は、通常のポリエステル映算は、そ のポリマー構造に関連して、各種の改変加工祭 との反応性が振めてとばしく、無難と化学的に 反応させることが組集であるため、恒久的な加 工効果を保持しにくいためである。

一方ポリエステル職業をアルカリ水溶液で処 **患して能差表面を改費することが知られている** が、との方法では職業重量は減少するものの 表面層には官能基がほとんど生皮したい。

従って、従来の方法でアルカリ処理したポリ エステル機能の表面は殆んど化学的には改复さ れておらず、との機能を各種の教養加工祭で処